

# 難波田城だより

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース—

平成 24 年 6 月 1 日発行  
編集・発行/富士見市立難波田城資料館  
**第 52 号**  
NEWS from NANBATAJO

## 市制 40 周年事業「古民家結婚式」に思うこと

市民学芸員 阿部 重男



花嫁宅での祝宴（昭和 38 年、上南畑） 渋谷進氏撮影

今年の 11 月 24 日（土）に、富士見市制 40 周年事業として難波田城公園で「古民家結婚式～ちょっと昔のご祝儀を再現～」が行われます。市民の生涯学習体験の場として活用されている移築古民家で催されるため、大いに意義あるものとなるでしょう。

日本の婚姻は時代により、身分によりさまざまな形態をとりながら、「婿入り婚」「足入れ婚」「嫁入り婚」などと変化していきました。

「婿入り婚」は、古くは源氏物語のなかでも書かれ、男性が女性の家に通うというもので、「通い婚」「妻訪い（つまどい）」とも言われ、女性の方が公認すると婚姻が成立しました。戦国時代・江戸時代になると男性の家に女性が嫁ぐ「嫁入り婚」の形がとられるようになりました。それにより、結婚式の原型である婚礼・祝言が始まり、それが一般庶民の間にも広がりました。地方によっては「足入れ婚」なる形態が昭和時代まで残されていました。しかし、いずれの場合にも婚姻の祝いや儀式などは、婿か嫁の家で行われるのが一般的でした。

今回の「古民家結婚式」も市内のしきたりに基づいた形態を再現して行うもので、地域の皆さんの聞き取り調査から始まり、式の段取りも市民の皆さんの協力による一大イベントとなります。

富士見市域では、まず、「婿入り」といい、花婿一行（花婿・仲人・おじ・おば）が花嫁宅に花嫁を迎えに行きます。花嫁宅では花婿一行を交え祝宴を開き、花婿は花嫁の両親・兄弟姉妹に手土産を渡し、一足先に帰ります。その後、花嫁は父母にあいさつ



記念写真（昭和初期） 富士見市史現代資料編より

し、実家を出ます。この時に父親は娘に「二度とこの家の敷居をまたぐな」と言ったそうです。

婿宅では、組合の人が門前で提灯を持ち、出迎えます。家の本座敷では、相伴頭（しょうばんとう）のあいさつで始まります。①桜湯を飲む②婿へのお土産を用意する③仲人による双方親戚の紹介④オチツキの餅を食べる⑤三つ盃で冷酒を順次まわして飲む⑥へヤ（寝室）でロウソク 2 本を灯し、男女の子による三三九度、座敷では無礼講となる⑦親子盃をかわし⑧お色直し⑨引き出物を渡す⑩仲人・婿の親・相伴頭の間で「里帰り」の日を決める⑪うどんを食べる、でお開きとなります。その後、お手伝いしてくれた人に対して「タイギブルマイ（オヒロメ）」という、宴席を設けます。以上が、富士見市で伝えられてきた婚礼の式の流れだそうです。



花嫁宅を出て花婿宅へ向かう（昭和 30 年、上南畑） 渋谷進氏撮影

このような歴史から生まれたしきたりは、日本人が長い歴史の中で培った、まさに生活の知恵であり、豊かな人生観の表れでもありました。日本人のしきたりを難波田城公園の古民家を通じて、次世代に伝承してきたいと思います。

参考文献：『日本人のしきたり』

## こんなお宝がありました 資料館編

### 農機具「マンガ」と「代かき」について

夏に向かい、6月には難波田城資料館の田んぼでも田植えが始まります。この時季、「田んぼ体験隊」参加者の皆さんの中には、郷里の田園風景、一面に水が張られどこまでも広がる田んぼ、昼にはトンボが舞い、夜はカエルの合唱と、そんな昔を思い出す方もおられるのではないかと思います。

田植えの準備は、田起こしに始まり、水が漏れないように畦を土で塗り固める「くろつけ」をした後に、「代かき」をします。「代かき」は田に水を入れて起こした土塊を細かく砕き、泥状にする作業で、人力と畜力とによる場合があります。畜力で行う代かきは、牛馬に「マンガ」（写真）を引かせました。ちなみに人力での代かきは、マンノウやエブリといった道具を使いました。人にとっても牛馬にとっても、代かきはとてもきつい作業だったことでしょう。作業が人畜力から機械力に変わった現在、人力の代かきを体験できる「田んぼ体験隊」参加者の皆さんは、どのような感想を持たれるでしょうか。（横田康男）



シロカキマンガ



難波田城公園での代かき  
マンガを牛馬代わりに人が引く体験中

### おもしろ・なつかし体験③⑥

## ビニールだこづくり

このコーナーは、難波田城公園での体験事業やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

この日は4月になってから初めての日曜日でしたが、当日は嵐で、風と雨が吹き荒れました。翌日は天気予報の通り、朝から晴れ渡りました。来園者も多く、蓮田市からの研修者もあったため、ちょっと体験の場所や用意はあたふたした様子で始まりました。

材料は、富士見市扇だこ保存会の会員となっている市民学芸員から提供されたダイヤカイトのポリエチレンシート（ゴミ袋を切ったもの）と竹ひごを使用しました。扇だこ保存会の市民学芸員の指導のもと、小

さな子どもは完成しているタコにマジックで今どき風のたこ絵を描き、小学生以上の参加者は一から作りました。

最初は風が強く、完成したタコが舞い上がっていきましたが、14時頃から作り始めた参加者は、完成した頃に風が止まり残念そうでした。47名もの参加者があり、皆さん満足そうに帰って行きました。

（原洋子）



出来上がったタコに絵を描く子ども達

## 人の創った道具★人の使った道具

このコーナーでは、当資料館所蔵・展示資料を紹介  
します。

# 世界を制した砲丸

企画展「世界一の砲丸職人－辻谷政久氏のものづくり－」より



### オリンピック3大会連続でメダル独占

富士見市には、オリンピックで有名になった砲丸職人の辻谷政久氏（有限会社辻谷工業代表）がお住まいです。辻谷氏が作った（俵）ニシ・スポーツ製の砲丸は1996年（平成8）のアトランタ大会から3大会連続で男子砲丸投げの金・銀・銅メダルを独占しました。



**写真2 筋入り砲丸**  
バルセロナ大会（1992）からシドニー大会（2000）まで使用されたモデル。手にフィットするよう、指紋をヒントに細かく筋を入れた

競技会場に並ぶ砲丸は、国際陸上競技連盟（IAAF）の検定に合格したもので、世界で5社程度です。辻谷氏の砲丸は「重心が真ん中にあるので投げやすい」と選手に選ばれたのです。この栄光をつかむまでには、並ならぬ努力の軌跡がありました。

### 砲丸を作るきっかけ

1933年（昭和8）、辻谷氏は東京・浅草で町工場を営む家の五男として生まれ、高校卒業後、旋盤工の父親の下で働いていました。実家では大手自動車メーカーの下請けとして自動車部品を作っていましたが、「下請けでは将来性がない」と26才で独立します。独立後は大手が手がけていない製品（キャンプ用テント、ゴルフのアイアンなど）を次々と開発・製造しました。そのうちにハードル製作の依頼があり、次に砲丸を依頼されました。

### きびしい国際規格に挑戦

砲丸を作り始めた1968年（昭和43）頃は「片手間でできる仕事」でしたが、1980年（昭和55）頃にIAAF規則の規定が「誤差20g以内」ときびしくなると、国内の多くのメーカーは撤退しました。しかし、辻谷氏は新規格に挑戦しました。

砲丸は、鋳物の素材を仕入れ、汎用旋盤（写真3）で削って作りますが（写真1）、試作品データ

### 写真1 砲丸の製作工程見本/（有）辻谷工業製

による加工マニュアルどおりに作っても2～3割の不良品が出ました。再度試しても同じだったので、知人の会社に頼み、NC旋盤（入力した数値どおりに自動制御する）で作ってもらいました。すると、今度は7割が不良品でした。

「原因は機械ではなく、材料だ」と、素材を知るために鋳物工場に1年半修業しました。

### 鋳物工場の修業で得たこと

夏は50℃にもなる過酷な現場で、各工程を経験し、辻谷氏は次のことに気がきました。

- ①季節によって大きさが変わる…砲丸素材の直径が夏は冬より1mmくらい大きいので、削る量を加減しないと、大きさがそろわない。
- ②鋳鉄（鋳物の鉄）は密度が均一ではない…重い成分や軽い成分が混ざっているため、直径と重量をそろえにくい。

「機械もマニュアルもアテにできない」と、「経験とカンだけを頼りに」一つ一つの素材に向き合い試行錯誤で削るなかで、重心が真ん中の砲丸が“飛ぶ”ことも発見しました。密度が均一ではない鋳物を、重心が真ん中にくるように削るのはとても難しいことでしたが、作り続けました。そして、音・光・感触のわずかな差を見極める境地にたどりつき、「世界に出しても恥ずかしくない」砲丸が完成しました。

（同展 は8月19日まで開催中）



写真3 辻谷氏と愛用の汎用旋盤

# \*\*\*夏のイベント予定\*\*\*

## ●じゃがいも掘り体験

日時 6月24日(日) 午前10時～正午  
場所 旧金子家住宅前(畑は公園の隣り)  
定員 30組(申込順)  
参加費 1組1,000円  
持ち物 持ち帰り用の袋、シャベル、農作業ができる服装・靴、参加費  
主催 難波田城公園活用推進協議会  
申込み 6月1日(金)午前9時から直接または電話で

## ●竹かご教室

盛りかご(右写真)を作ります。

日時 6月23日(土)  
午前10時～午後4時  
定員 15人(初心者優先、申込順)  
参加費 1,000円(材料費)  
持ち物 昼食、雑巾、エプロン(前掛け)  
指導 資料館友の会竹かご部会  
申込み 6月2日(土)午前9時から直接または電話で(8日、午後5時に締切り)



## ●夏休み古民家宿泊体験

市内在住の小学4～6年生を対象に開催します。

開催日 7月28日(土)～29日(日)

\*詳しい内容や申込み方法は  
広報ふじみ7月号をご覧ください。



旧金子家住宅の絵：芳賀氏

## ●ゆかた着付け教室

ゆかた  
浴衣の着付けと帯結びを覚えます。

日時 6月30日(土)午前10時～午後3時  
(午前のみも可)  
対象 中学生以上  
定員 15人(申込順)  
参加費 無料  
持ち物 昼食。女性は、浴衣、半幅帯、裾よけ、伊達じめ、腰ひも2本、タオル3本、肌じゅばん(タンクトップ、ランニング等でも可)、持っている方は帯板、コーリンベルトなど。男性は浴衣、帯など。  
指導 和道文化着装協会  
申込み 随時、直接または電話で

## ●藍の生葉染め

日時 8月4日(土) 午前9時半～正午  
定員 10人(初参加優先、申込順)  
参加費 2,000円(材料費、事前集金)  
持ち物 エプロン、ゴム手袋、濡れても良い履物  
指導 河野悦子さん  
申込み 7月1日(日)午前9時から、詳細は広報ふじみ7月号をご覧ください

## ●ちよっ蔵市

(難波田城公園活用推進協議会主催)

6月24日(日) ふかしいも  
7月22日(日) 流しそうめん  
8月はお休みです

※時間は午前11時から。売り切れ次第終了です

## 《難波田城公園花ごよみ》

スイレン(5～9月)、アジサイ(6月)、  
ハナショウブ(6月)、クチナシ(6月)、  
サルスベリ(7月)、ハギ(8月)

\*7月には行田市からいただいた  
行田蓮が花を咲かせます。



なんばたじょう  
難波田城  
FUJIMI MUNICIPAL MUSEUM

編集・発行／富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1 Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

富士見市役所公式ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

◆資料館休館日/月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土曜日・日曜日を除く)、年末年始 開館時間/午前9時～午後5時

◇公園休園日/なし 開園時間/午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)